

カーボン・オフセット推進ネットワーク（CO-Net）の設立について

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局長 由田 秀人

我が国におけるカーボン・オフセットの取組が開始されて数年が経ようとしている。環境省等の指針・ガイドライン類の策定や気候変動対策認証センターによる認証スキームや J-VER 制度が開始される中、ビジネスセクターにおいても、カーボン・オフセットに関する新たな動きが活発化している。

1. ビジネスが牽引するカーボン・オフセット

2009年4月8日、カーボン・オフセット推進ネットワーク (www.carbonoffset-network.jp) が設立された。エネルギー・運輸交通・建設・小売・広告等各種業界のリーディング・カンパニーが中心となり、政府・地方自治体・市民等の様々なプレイヤーと協働を図りながら、国民運動として展開しつつ、ビジネスからカーボン・オフセットの取組を推進させることを目的としたものである。

2. ネットワークの活動

CO-Net での具体的活動としては、参画するメンバー企業の専門性の「強み」を活かした活動を行うことが予定されている。

例えば環境配慮型のイベント等を開催する場合、カ

ーボン・オフセットを含めた取組のためのマニュアルやガイドライン等があれば、取組のレベル感や業務フロー等への組み込み方が実務者により理解されやすい。このような検討は、その業界特有の慣行や経験に精通したメンバー企業が強みを発揮しながら貢献することが可能である。他には、J-VER 等の GHG 排出削減・吸収プロジェクト実施のためのポジティブリストや方法論の開発といった分野では、省エネの技術やノウハウを持った企業が得意とするところであろう。更には、異業種交流を通じてビジネスモデルを開発するためのパイロット事業の実施を行う等のアイデアも挙がっている。また、環境省などに様々な提言を行っていくことも考えられる。

3. アクションを基本としたネットワーク

4月に設立されたネットワークについては、注目度が極めて高いものとなっている。ビジネスが果たすことのできる役割についても、社会の期待も大きい。CO-Net では、このような期待に応えるべく、メンバーの力をアクションに移し、社会に向けた有益な情報発信を行ってゆきたいと考えている。

第 20 回 OECC セミナー 「アジア地域における資源循環の現状と先進的取組み」

第 20 回 OECC セミナーは、アジア地域における資源循環の現状と先進的取組み（サブテーマ：金属回収を中心に）をテーマとし、2008年12月5日に約60名の参加者を集めて開催された。相川研修部会長の挨拶で始まり、寺園淳氏（独）国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター）から基調講演「使用済み電気電子機器の越境移動と管理」が行われた。第2部では、パネルディスカッション/各アクターの取組みと題し、各パネリストから発表があった。環境省リサイクル対策部リサイクル推進室長の上田康治氏からは、「使用済み小型家電からのレアメタルの回収及び適正処理」について環境省の取組みが発表され、DOWA

エコシステム（株）企画室担当部長の仲雅之氏からは、「DOWA の取組」、日本 IBM（株）環境統括プロジェクトマネージャーの野澤一美氏からは「IBM の製品処理業者管理と展開」としてそれぞれ企業の取組みが発表された。

由田秀人氏（OECC 特別参与）がコーディネーターを務め、前述の3名に寺園室長を加えた4名をパネリストに迎え、本セミナーのサブテーマとしてあげられたアジア地域の金属回収について、それぞれの国内地域で循環されるべきか、あるいはアジアの地域規模で循環させるべきかについて、活発な意見交換が行われた。また、フロアからは、資源価格は変動するので、資源を含む廃棄物の保管が検討されるべきではないかとの意見があり、各パネリストがそれぞれの立場から見解を述べた。今回のセミナーでは、今話題のレアメタルが取り上げられたため、議論が大いに盛り上がり盛況であった。最後に、片山徹（OECC 専務理事）は、日本はリサイクルがお家芸、その技術協力でアジアに貢献したいと挨拶し、閉会となった。



研修部会 宮川 隆